

自分にしかできないこと

<新しい年が始まりました>

炎鵬関という関取がいますがご存じでしょうか。先場所では8勝7敗で勝ち越し、昨年の7月場所から4場所連続で勝ち越しています。身長168cm、体重99kg。ちなみに長野県出身の御嶽海関は、180cm、177kg。横綱の白鵬関は192cm、155kgです。相撲の世界では小柄ですね。身長だけ見れば中学生とそんなに変わりません。相撲は歯が立たないかと思えばそうではなく、結果を残しています。体が大きくなれば細かく素早い動きが苦手になっていきます。炎鵬関は逆に細かく素早い動きがうまく、自分の得意なところを生かして相撲を取っています。自分よりひとまわり、ふたまわりも大きく見える相手を抱え上げたり、押し出したりして、相撲は体重や体格だけでは勝てないことを証明してくれています。人気も高く炎鵬関が勝つと場内はひとときわ沸いています。以前、技のデパートと呼ばれた舞の海関という関取がいました。現役当時は身長171cm、体重101kgでした。この方も小柄でしたが様々な技を繰り出して戦っていました。

昨年3月の卒業式に、かつてアメリカNBAプロバスケットボールの選手で、身長が160cmだったタイロン・カーティス・ボークス（マグジー・ボークス）選手の話をしました。2mを超える選手がごろごろいる中で、誰よりも速くドリブルをし、ボールをカットして活躍した方です。この方の言葉に次のようなものがあります。

「自分だけは自分を信じるんだ。それには『すべてが可能だ』と信じるマインドセット（意識付け）が必要なんだ」

勇気づけられる言葉ですね。こうした選手に共通しているのは、体が大きい方が有利とされている世界で、体格を悲観したりあきらめたりするのではなく、自分の好きなこと、得意なことを基に、他の人にはない自分ならではの特性を磨いて勝負していることです。こうした姿を見ていると、気持ちが高まり、元気や勇気が出てきますね。



<好きなこと、得意なこと>

「楽しくない」「つまらない」「自分が活躍できない」「なかなか勝てない」「試合に出られない」「自分の出番がない」「一生懸命やっているのに成果が表れない」といったことが続くと、どうしても気持ちが落ち込みます。目の前に困難が立ちあがると、それに圧倒されてあきらめたり自信を失ったりして、「私には無理だ」となかなか前に進めないものです。また自分ができないことの原因をつくったり、「どうせ私は～だから」とふてくされてしまったり…。しかし本当に無理なのでしょうか。本当に何もできないのでしょうか。何かできることはないのでしょうか。こういう場合、自分の好きなこと、得意なことが抜け出すきっかけになるのだということを、12日の校長講話で伝えました。

子どもたちに「好きなこと・得意なこと」を尋ねてみました。すると「走ること」「バレーボール」「バスケットボール」などスポーツ関係が多かったのですが、他に「本を読むこと」「けん玉をすること」「音楽を聴くこと」「楽器を演奏すること」「料理をすること」という子どもも多数いました。更に、「元気なあいさつが得意」「勉強が好き・得意」「絵を描くことが好き・得意」なども大勢いまし

た。自分の「好きなこと・得意なこと」はとにかく夢中でやろうとしますし、自信にもつながります。「どうもうまいかないなあ」「私には無理かなあ」と思うような場面に出会った時、自分にできることや自分しかできないことは何かを考えてみると、乗り越えるきっかけが見えてくるのではないのでしょうか。これからの人生で、「好きなこと・得意なこと」は、趣味や将来の職業につながる可能性があります。さて子どもたちはどう受け止めてくれたのでしょうか。

- ・私はバレーボールで少し不安なことがありました。力が弱くてアタックもあまり入らなくて、いつも怒られてばかりでした。でも校長先生の話聞いて、「できないことがあっても、できることもあるから、できることを生かして、できないことも工夫してやろう」という気持ちが生まれてきました。だから、これからは、人間は何でもできる人はいないから、得意なことを生かして、『自分らしさ』を見つけてやりたいと思います。
- ・私はあきらめないことがとっても大切だなと思いました。やりたいことでもできなくてすぐあきらめていたら、ぜったいできないと思うからです。私は水泳で100m個人メドレーをやっています。とっても疲れるけど、あきらめずに練習してできるようにがんばりたいです。
- ・何があってもあきらめずに、自分の得意なことをすることが大事だと分かりました。炎鵬さんは体が小さいけど、炎鵬さんもあきらめずに相撲を続けました。そのあきらめない気持ちをまねしたいなと思いました。

これは児童が講話後に書いてくれた感想です。他に、いろいろなことに挑戦してみたものの、長続きしなくて途中でやめてしまったことを反省し、これからあきらめずに頑張りたい、とする児童もいました。自分自身を振り返りながら話を聞いてくれたことを、とても嬉しく思います。

毎日の生活の中で、つらくて嫌になってしまう場面、逃げ出したくなるような場面に出くわすことはよくあります。そんな時どうやって本来の自分を取り戻すか。友だちに相談してみるのもいいでしょう、家族に相談してみるのもいいでしょう。でも最後は自分で考え、判断したいですね。その時に、自分の好きなこと、得意なことを思い浮かべてみましょう。きっとそこに解決のヒントが隠れていることと思います。解決へのきっかけが見えてくることと思います。



<参観日ありがとうございました>

4・5年生2月7日、1・2・3年生2月14日、6年生2月18日、それぞれの学年に分かれて行われました今年度最後の授業参観へ、ご多用中にもかかわらずお越しくださり、ありがとうございました。

児童の学習発表という形式が多かったかと思いますが、その中でこれまでの努力の成果、育ちの様子をご覧いただけたのではないかと思います。この3学期は、まとめの時期であると同時に、4月からの生活の準備期間でもあるのです。年上の学年の人たちがどのようにこの1年を過ごしてきたのかを思い返し、「自分たちならこんなふうにやってみたいな」といった夢を語れるようになると、充実した新年度につながることでしょう。来年度の子どもたちの活躍を期待しています。

